



ジュゴン (右) とジュゴンの肉塊 (左) の彫刻
右から H0123816、H0102407

◆◆◆ 神話のなかの人魚 ◆◆◆
人魚は上半身が人、下半身が魚。その
蠱惑的な女性のイメージの奥にはヨーロッパから長い航海に出た男たちの妄想が潜
んでいるようだ。特に地中海で船乗りたち
を誘惑しようとしたセイレーンの描写は、
南太平洋アフリカ沿岸のマミ・ワタ、そし
てハリウッド映画へとつながっている。人
魚のイメージのほとんどはジュゴンだとい
う説がある。丸い胴部や鰭の基部の乳房から
授乳する様子が人に近いからだろうか(ま
るで我が子を抱く人間の母親のように、鰭
で子どもを抱きかかえていると思われてい
るが、事実ではない)。しかし、人魚の民
話は古くから世界各地にあり、必ずしも

性的な要素は含まない。

一九八〇年代にオーストラリアでみんば
くの資料を収集していたとき、人魚らしい
絵を見つけた(一四ページ)。中央アーネ
ムランドにあるグニング族の領土のマン川
源流に聖なる泉があり、そこに下半身が
魚の形をした精霊が住んでいるという神話
を描いたものであった。造化神である虹へ
びと魚や水草も描かれている。人魚の精霊
は、今でもその姿を見ることがあるとい
う。人魚ならばジュゴンはないかと探したら、
東のグマツチ族の彫刻群を見つけた。しか
し、そのなかに四角いだけのものがあつた
ので何だと聞いたら「肉である」と(一五
ページ左上)。ここではジュゴンは単なる
食料でしかなかったのである。ジュゴンは
体長三メートル、重さ四五〇キログラムの
哺乳類で、熱帯から温帯の浅い海に棲む。
とりやすいので乱獲され今では絶滅危惧
種となっている。肉は栄養が豊かで珍重さ
れていたのである。日本でも南西諸島の貝
塚から出土しており、縄文時代から食料
にした記録も多い。

◆◆◆ 貨幣経済と人魚 ◆◆◆

アポリジニの神話は人、動物、植物、自
然まで混然一体となって展開する夢の世界

(ドリミング)で、彼らの生活の規範で
あり、内容を一族以外の人に語ってはいけ
ないとされている。ところが、現在はアポ
リジニ社会も貨幣経済に巻き込まれ、彼
らの美術工芸品が貴重な現金収入源と
なっているのだが、作品のほとんどが神話
を題材としているためにその内容の説明が
必要になってきた。もちろん、神話にも儀
礼、戦闘、性交、出産など秘密度の高い
もの以外に、子どもや外国人に語ってもよ
いバージョンがある。

その例のひとつが中央砂漠のプレアデス
星団の七人姉妹の話である。しつこく迫る
男の手から逃れてついには天に昇って星に
なったという話が一般化し定着している。
秘密度が低いので美術工芸品にとり上げ
られることが多い。人魚についてもアンデ
ルセンの人魚姫のような美しい話がアポリ
ジニの絵画や彫刻にとり込まれる日が来る
のかもしれない。

文化が変容するのは受け入れ側が都合
の良いものであれば積極的にとり込んで行
くからだろう。その大きな原因のひとつに
経済がある。世界の神話に意外な共通点
がしばしば見られるのもそれが大きな原
因のひとつだと考えてよいだろう。

想像界の生物相

人魚とジュゴン

—オーストラリア・アーネムランドの神話と美術

民博 名誉教授 小山 修三
こやま しゅうぞう

資料名 | 樹皮画 ヤウキャウク (水の精) と虹へび

標本番号 | H0085718

民族 | グニング族

地域 | アーネムランド、オーストラリア

サイズ | 縦 134 × 横 69 × 厚さ 0.4

※サイズの単位はセンチメートルです

